

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572210367
法人名	五十嵐企画
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢115-16 (電話) 0185-72-4343
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年9月30日

【情報提供票より】 (20年9月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤11人, 非常勤4人, 常勤換算11.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	~1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円		円	

(4) 利用者の概要 (9月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0		
年齢	平均 83.6 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋田県厚生連山本組合総合病院 医療法人能代歯科医療会
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは温泉街の中心に位置し、建物は明るく開放的な作りとなっている。管理者及び職員は共通の理念の下、利用者の立場で、自立を阻害せずに自分らしく生活できるような支援に心掛けている。また、計画的に職員を外部の研修に派遣したり、併設事業所と合同で内部研修を行う等、常に職員の資質向上に取り組んでいる。近隣住民との相互交流も活発に行われ、地域の行事に参加したりボランティアや実習生を積極的に受け入れるなど、地域と深く関わっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善課題として挙げられた点はないが、各種書類及びマニュアルや記録等の様式を随時改善しており、第三者が見ても非常に分かりやすい内容となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎年2回、全職員で自己評価に取り組んでいる。その結果を会議で話し合いながら利用者へのサービス向上に努めたり、環境整備に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会長、民生委員、第三者委員、家族会、地域包括支援センター等で構成される運営推進会議で外部評価の結果を報告しており、改善に向けて具体的に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的にホーム便りを発行してホームの現状を伝えている。毎月、利用者の健康状態や受診状況、預かり金に関する報告をしており、預かり金に関しては詳細を説明して確認の署名を頂いている。また、年2回行う家族会や年1回のアンケート調査により家族の意見等を運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として自治会に加入し、地域活動に積極的に参加している。ホームの行事には地域住民を招いたり、高校生のボランティア活動や実習生も随時受け入れたりしている。また、防災訓練等には、多くの自治会の方々に参加して頂いている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても安らぎと自信をもって自分らしく暮らしたい」という理念の下、利用者が地域に溶け込んで暮らしていけるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員は理念を理解している。管理者と職員は日常的に運営上の方針や目標を話しながら常に理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、プランター作りや祭り等の地域行事に積極的に参加している。また、ホーム内で行われる納涼会、クリスマス会、忘年会に地域住民を招き、活発な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、新任職員には分かりやすく説明している。外部評価で課題として挙げられた事項に関しては会議で話し合い改善するように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で外部評価の結果や改善策を報告してサービス向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアサービスの取り組みに関しては必要に応じて町担当者と相談しており、地域包括支援センター主催の口腔ケア講習会等の保健指導も受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを発行して利用者の暮らしぶりを伝えている。また、利用者の健康状態や受診状況、預かり金に関しては毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケート調査や、年2回行う家族会により家族の意見等を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職員については、利用者と馴染みの関係構築が大切であることから、信頼関係維持のため異動は行わないように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、管理者研修、新任研修、認知症研修等に参加している。参加者は研修報告書を提出し、他の職員で回覧している。ホーム内においては外部講師を招いて年2回の内部研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本グループホーム協議会に入会しており年に数回、同業者で交流を図りながら情報交換したり、広報を発行したりしている。また、地域の同業者間で互いに訪問して活動内容を確認し、自ホームのサービス向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族がホームを見学したり、職員が自宅や入所施設を訪問するなど安心して入居できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から地域の風習などを教えてもらう事が多い。また、書道やお花の指導をして頂いたりして、利用者と一緒に楽しむようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴を把握して本人の思いや意向について考え、希望する暮らし方になるように取り組んでいる。意思疎通が困難な場合でも本人の表情を読み取りながら安心して生活できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人あるいは家族から意見を聞き、それをもとにして職員で検討してその人らしい生活ができるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前にサービス提供内容を評価している。期間中に心身の状態に変化があった際は、会議等で話し合い、随時新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ユニットの特性を活かして、夜間帯等必要時には相互で協力している。また、併設のデイサービスには看護師、栄養士が勤務しているので、健康面及び栄養管理面で協力してもらう等、利用者にも柔軟に対応できる体制が取られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にとって入居前のかかりつけ医が継続できるように支援しており、毎月の通院介助を行ったり、往診に来て頂いたりしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の介護に係わる支援方法を策定しており、入居時に本人及び家族に説明している。重度化した場合、本人又は家族の希望があれば、主治医との連携の下、終末期へ向けたケアができるような体制作りをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本人の尊厳を大切にし、言葉遣いには十分気をつけ、柔らかな対応に心掛けている。また、個人情報保護に関するマニュアルを整備しており、利用者の個人情報管理の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は決まっているが、利用者本人主体に考え、その日の心身状態に応じて柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みを把握して、嫌いな食べ物を細かく刻む等、工夫している。食事の際は職員も同席し、同じものを食べて会話を楽しんでいる。食事に時間がかかる利用者もなるべく自分で食べるように見守り、必要最小限の介助に心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	利用者本人の希望により柔軟に入浴時間を変えており、希望があれば毎日でも入浴できる。また、温泉地の利を生かして浴槽には温泉を引いており、利用者にとっても喜んで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握して、なるべく以前の生活習慣が継続できるように支援している。利用者に家事の手伝いや掃除をしても良かったり、干し柿やおはぎ作りを教えるも良かったり、得意分野で力を発揮できるように取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により、入居前に生活していた自宅や畑、お墓に連れて行くこともある。また、誕生日に買い物に出かけたり、天気の良い日は近所を散歩するなど、柔軟な外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関を施錠していない。利用者が外出しそうな時にはそっと声を掛けたり、一緒に散歩するなど安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て日中と夜間に避難訓練を行っている。事前に地域にも知らせて自治会の方たちにも参加して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士によりバランスの取れた献立を作成している。毎食時一人ひとりの食事摂取量及び水分摂取量を記録し、摂取量が不足している場合はおやつや補助食品等で補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に作成した創作物を壁に張ったり、共有空間には手作りの装飾品を飾ったりするなど家庭的な雰囲気になるように努めている。また、心地よい音楽を流して心身ともにリラックスできるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使い慣れた家具や生活用品を持ってきてもらい、利用者が安心して生活できるような室内空間づくりに努めている。		

※ は、重点項目。